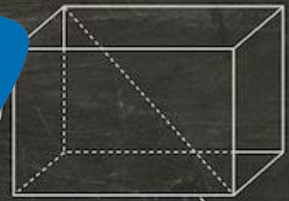


学生のための政策立案コンテスト

BRIDGE計画

GEIL 2020



「教育格差」とは



目標となり得る**選択肢の量と種類**が「生まれ」によって制限されている状態。
目標を持っていたとしても**そのために努力をできる人とそうでない人がいる**状態。

※前提

教育格差の要因と思われる**地域格差、学歴社会、所得格差**などは前提
(社会構造を変革するには長い時間を要する為、現在の社会状況を前提として立案する。)



①「生まれ」によって選択肢が制限されていること(教育格差)

②必要な人に必要な支援が十分に届いていないこと

ex.) NPO法人の存在を知らない

上記の要因により、

格差が拡大している

就職





- ①目標となり得る**選択肢の量と種類が**
生まれによって制限されていない状態
- ②それらの**選択肢を知った上で自分の目標を決め、**
そのために努力しようと思える状態
- ③目標達成に向け、**必要な支援を自分で見つけられる状態**



「BRIDGE計畫」

Birth

Rights

Interactive

Dream

Generation

Experience

「BRIDGE計画」の概観



注目
ポイント!

目標: 自分から必要な支援を探せる力

目標や夢を持ち、実行できる

WILL計画: ポータルサイトの
(短期) 提供(メイン計画)

義務教育
の場

不登校児
義務教育
の場へ

義務教育の場に行ける

不登校
義務教育
の場へ

COMFORT計画: ネウボラ制度
(長期) の導入

公共施設

現在

未来

(未然に防ぐ)

(未然に防ぐ)



「COMFORT計畫」

Care

Organize

Mature

Fortune

Overcome

Regularly

Tender

ネウボラ制度



妊婦



出産後



就学前-小学生



中学生-高校生

ネウボラによる継続的サポート

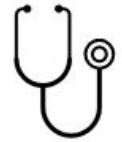
SOS!!!



ネウボラ



NPO法人



病院



支援団体

ネウボラの役割

- ・親の**育児をサポート**
- ・親の**精神面**や**経済的な状況**を把握
- ・子どもと家庭が**必要としているサービスや制度に「つなぐ」役割**
- ・**夫婦間関係・家庭環境**を把握

目的&効果



COMFORT計画の目的: **義務教育の場における** 教育格差の是正

つまり、

義務教育の場に行けない子どもたちは「WILL計画」の対象外

⇒「COMFORT計画」で対応

WILL計画:ポータルサイトが提供される義務教育の場へ

義務教育の場

義務教育の場に行ける

不就学児
義務教育の場へ

不登校
義務教育の場へ

COMFORT計画:義務教育の場に行けない子を行けるようにする！

- ①不就学
- ②不登校

(未然に防ぐ)

現在

未来

(未然に防ぐ)



① **不就学層 (もともと学校に通うことができていない)**

→ 虐待・ネグレクト・DV・社会的養護など

＝ネウボラで根本解決!!

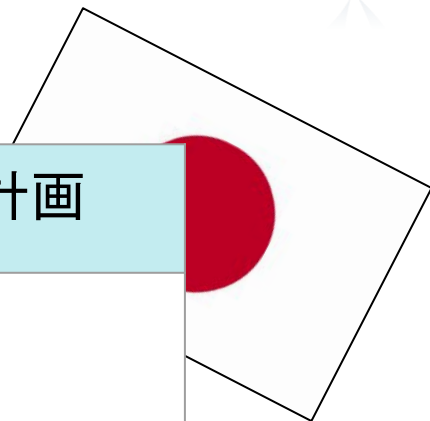
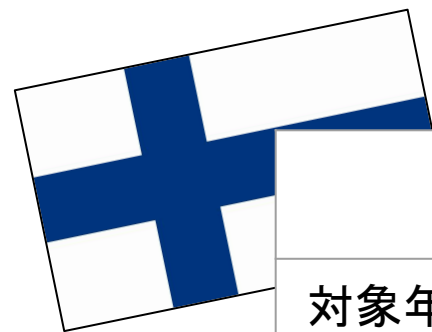
② **不登校層 (一度は学校に通えたが、その後不登校に)**

→ いじめ・非行・無気力など

＝ネウボラで相談できる!!



相違点



	フィンランド	COMFORT計画
対象年齢	6歳まで	18歳まで (希望者)
形態	任意	義務
利用率	99.5%	100% (目標)

対象年齢層



虐待を受けた子どもの年齢構成別

小学生が34.5%と最も多く、次いで3歳から学齢前児童が23.8%、0歳から3歳未満が19.7%である。
 なお、小学校入学前の子どもの合計は、43.5%となっており、高い割合を占めている。

被虐待児	0歳～3歳未満	3歳～学齢前	小学生	中学生	高校生等	総数
	17,479(19.7%)	21,186(23.8%)	30,721(34.5%)	12,510(14.1%)	7,035(7.9%)	88,931(100.0%)



ひとりのネウボラ医師が担当

増加傾向

減少傾向

・ネウボラとの
信頼関係の構築
 ・子ども**自ら連絡できる**
 力を育てる

・苦しいことがあったら、
すぐにネウボラに相談する

サービス内容	出産前	0~就学前	小学校	中学~高校
妊娠ネウボラ(月2)	→			
子どもネウボラ(月2)		→		
小学ネウボラ(月1)			→	
SOSネウボラ(緊急時)			→	→



全国に何個必要か

年間出生数が47都道府県の中央値である群馬県で計算

週5で働いた場合、1人のネウボラが見られる子どもの数が38人であると仮定すると、

週3で働いた場合に見られる子どもの数は、 $22.8 \div 3 = 7.6$ 人となる。

群馬県の年間出生数が2,922人(2018年)である。

妊娠中・就学前は月に2回は義務、残りの2回は任意であるとし、小学校入学から卒業までは月に1回が義務であると仮定すると、(任意の場合にネウボラを訪れる者の数は半分であるとする)

群馬県内で必要なネウボラ職員数は 約7,782人

ネウボラ数は 約9箇所

全国で必要なネウボラ職員数→約84,254人

ネウボラ数→約369箇所

実現目標



何年で実現可能か

これまでの自治体主導の日本版ネウボラは4～5年計画
例)渋谷区4年、福山市5年

相対的貧困層＋ひとり親家庭(最大で全世帯の20%程度)から始め、
段階的に整備

⇒**10～12年**で整備完了

児童虐待の要因の上位2位の**一人親家庭**と
経済的困窮家庭からネウボラの利用

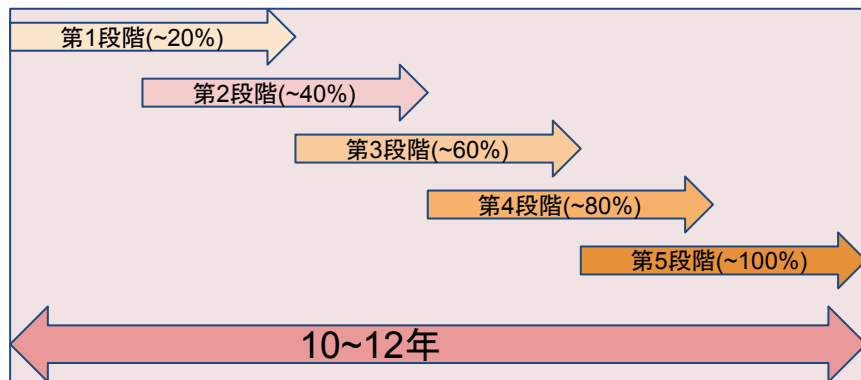


表1 児童虐待の要因と割合

家庭状況	あわせて見られるほかの状況上位3つ				
	件数	割合(%)	1位	2位	3位
一人親家庭	460	31.8	経済的困難	孤立	就労不安定
経済的困難	446	30.8	一人親家庭	孤立	就労不安定
孤立	341	23.6	経済的困難	一人親家庭	就労不安定
夫婦間不和	295	20.4	経済的困難	孤立	育児疲れ
育児疲れ	261	18.0	経済的困難	一人親家庭	孤立

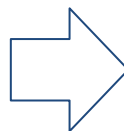
出典) 東京と福祉保健局「児童虐待の実態Ⅱ」2005より



設置当初

カウンセラー制度

- ・専門性は問わない
- ・リスクヘッジのための兼業を認める
- ・公民館など既存の建物内及び場所で行う
- ・人材確保のために給与を高め



10～12年後

サポーター制度

- ・学部などを設置し、**専門職員を育成**
- ・徐々に専門職員の占める割合を増やしていく
- ・専用の建物を用意する



行政：職業の魅力を発信！



行政

- ネウボラの仕組みの確立-
- ・ネウボラの普及により
捕捉率を高める
- ・細かい規則の制定
- ・情報開示
- ・システム上の効率化

各自治体

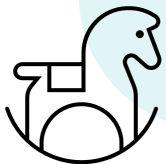
- 組織相互の連携体制の確立-
- ・ネウボラ専用のポータル
サイトの準備
- ・ICTを利用した施設同士の
情報共有体制の準備

ネウボラ捕捉率向上



出産前

- ・ネウボラの普及
(**情報提供**)
- ・申請方法やアクセスを
わかりやすく示す
- ・出産前からの**義務化**
- ・**母子手帳の受け取り**
役所⇒ネウボラ



出産後

- ・**育児ギフト**
=企業からの提供
(政府支援の下)
- ・**ネウボラに來ない人**
 - ①住民票で把握
 - ②ネウボラから電話
 - ③児童相談所、病院



政策の評価方法



- ①ネウボラの捕捉率
- ②虐待/ネグレクト件数
- ③不登校の件数
- ④不登校からの復帰件数
- ⑤利用者(子ども+親)へのアンケート

ex)-ネウボラを信頼できますか
-申請方法は分かりやすかったですか

- ⑥ネウボラ職員へのアンケート

ex)-勤務時間は適切ですか
-人手は足りていますか
-子どもの対応でお困りの点はありますか





「WILL計画」

Wish
Incentive
Learn to
Live

ポータルサイト内容



小学生



職業紹介



自由研究



本の取り寄せ



サイトの
使い方

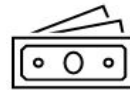
やりたいことは？

中学生

(小学生に追加して)



NPO法人



奨学金情報



企業情報



体験教室

高校生

サイトを用いて必要な支援を探せる
様々な選択肢を見たうえで、進路を決める





①「生まれ」によって選択肢が制限されていること(教育格差)

②必要な人に必要な支援が十分に届いていない

ex.) NPO法人の存在を知らない

上記の要因により、

格差が拡大している

就職



目的&効果

注目
ポイント!

①+②必要な時に必要な支援
を自ら受けられるようにする

高校生版
サイト

②主体性・自分で必要な情報に
アクセスする力を身につける

自由研究
NPO法人
サイトの利用

①様々な選択肢を知る

キャリア紹介

運営主体



企業



行政

民間: **システムの提供**
メリット: 資金面、CSR
活動の拡大

行政: **内容の提供**
(NPO法人の紹介など)
メリット: コストの削減、教育事業の拡大、
民間からのチェック、変革の速さ

それぞれのメリット



企業

- ・企業のプロモーションの場になる
- ・企業に興味を持つ生徒を増やせる



NPO法人

様々なアクター(企業・学校等)に法人の活動を知ってもらえる



生徒

- ・新しいフィールドへの興味を広げられる
- ・将来の選択の幅を広げることができる



行政

コストの削減、教育事業の拡大、民間からのチェック、変革の速さ

実現目標



- 文部科学省 教育のICT化に向けた環境整備5か年計画

達成年度予定 **2022**年

(1日1コマ分程度、児童生徒が1人1台環境で学習できる環境の実現)

- 企業との連携(システムの構築)

過去の事例より 約 **2**年 かかる

(国交省×主要建設業団体 官民連携 建設キャリアアップシステム構築年数)

⇒達成目標時期 **2022**年

既存のサービス



学研キッズネット

未来の仕事を探せ！

いろんな仕事についてのなり方を調べるができるよ。
好きなものや興味のあるジャンル、自分のタイプから探すことができるんだ。将来の仕事について楽しく考えてみよう！

栄養・調理・製菓



栄養・調理・製菓に関わる仕事についてのなり方を調べるができるよ。将来の仕事について楽しく考えてみよう！

 和菓子職人 くわしく見る	 ケーキデザイナー くわしく見る	 とうふ屋 くわしく見る
もっと見る		

メリット：
職業が分かる・自由研究
やりたいことベース



デメリット：
目標に向けて努力するためのコンテンツに十分つなげられない
⇒NPO法人データベース

NPOデータベース

メリット：
必要なサービスを提供している
NPO法人が分かる。

デメリット：
・データベースの捕捉率の低さ
⇒必要な人に必要なサービスが行き届いていない
⇒義務教育の場

大きな図書館



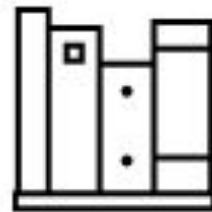
この本が読みたい！！



ポータルサイト(学校)から
本の予約



自分が頼んだ本が届いたという
自己達成感



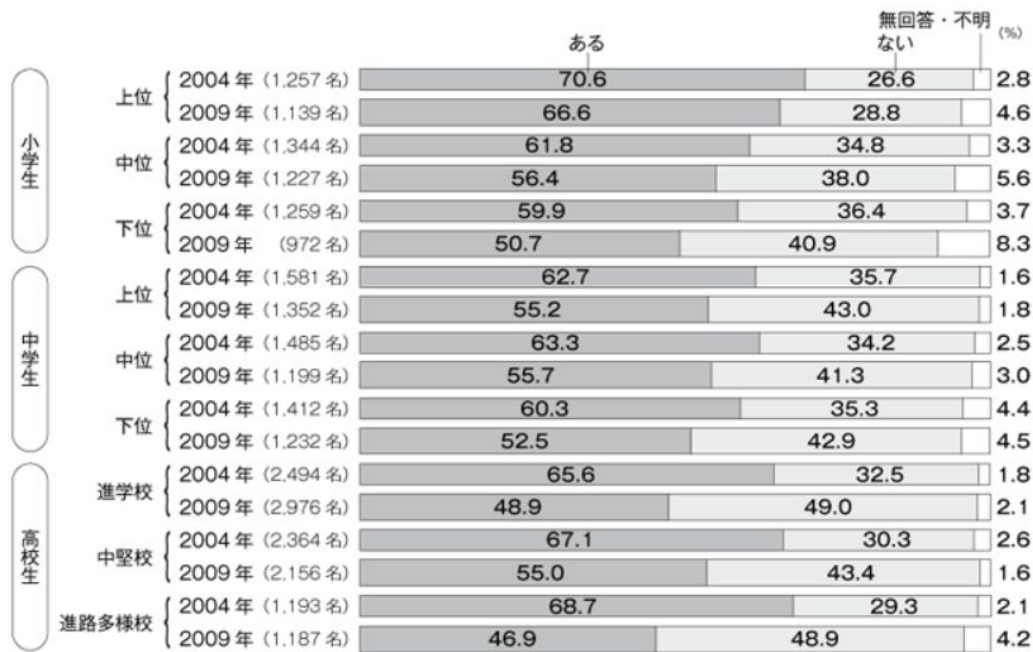
図書館

学校に本をお届け！

ただのキャリア教育じゃない！

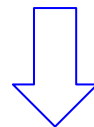


■図4-2-9 りたい職業の有無（学校段階別・成績／高校偏差値層別、経年比較）



小学生の学力下位層で
りたい職業がない人は

5人に2人



職業ベースだけではなく
やりたい事ベースで
考えられる

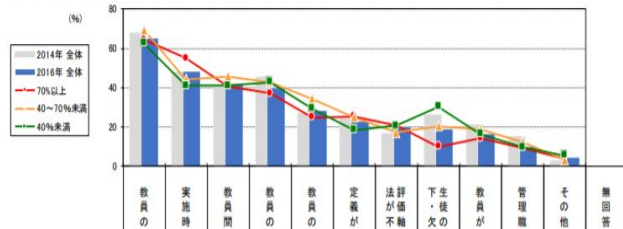
キャリアや大学進学を強要するものではなく、
あくまで**目標に向けて努力する姿勢や主体性を育むための**ポータルサイト

カリキュラム化の必要性



■キャリア教育を難しくしている要因（全体/複数回答）

Q11. 今後、各校においてキャリア教育を進めていくにあたり、「難しくしている」と思われる要因としてあてはまるものすべてにOをお答えください。



キャリア教育を実施するのが 困難な理由

1. 教員の負担の大きさ(64.9%)
2. 実施時間の不足(48.1%)
3. 教員間の共通認識の不足(41.8%)
(複数回答可)

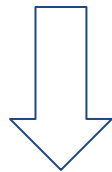
2016年 全体	2014年 全体	70%以上	40~70%未満	40%未満	30%未満	20%未満	10%未満	5%未満	その他	無回答											
64.9	67.7	64.9	48.1	40.6	39.9	28.1	23.0	20.0	19.0	16.1	10.0	4.3	5.7								
(n=1105)	(n=1140)	(n=525)	(n=221)	(n=304)	(n=210)	(n=358)	(n=794)	(n=309)	(n=848)	(n=82)	(n=127)	(n=69)	(n=102)	(n=154)	(n=203)	(n=148)	(n=30)	(n=147)	(n=110)	(n=130)	
67.7	47.9	40.6	45.2	26.8	24.1	16.8	25.8	20.9	14.9	2.5	2.7										

※調査年の「全体」より10.0%以上高い / 5.0%以上高い / 5.0%以上低い

カリキュラム化の必要性



キャリア教育
= 学校や教員ごとに解釈が異なる



カリキュラム化で
教員の負担を軽減



カリキュラム化～小学校～



例) 小学校3年生

「総合的な学習の時間」⇒ 70単位時間
うち22単位をキャリア教育に利用

1～3回 サイトで遊んでみよう

4～5回 おしごとを見てみよう

6～8回 好きなおしごとに関係する本を読んで、隣の子に紹介しよう

夏休み サイトから自由研究を1つ選んでやってみよう

9～11回 自分がやりたいおしごとを発表してみよう

12～14回 自分がやりたいおしごとと似たおしごとを探してみよう

15～18回 似たおしごとをやりたい人と3人組で自由研究をしよう

19～22回 学校外で体験学習をしよう

ex.) お花屋さん⇒お花を観察して調べ学習



⇒主体性を重視したコンテンツを通じ、児童の意欲を育てる

カリキュラム化～中学校～



例) 中学校2年生

「総合的な学習の時間」⇒ 70単位時間
うち22単位をキャリア教育に利用

- 1～3回 自分のこれまでを振り返ってみよう
- 4～5回 自分の性格を友達に説明してみよう
- 6～8回 興味のある職業に関する本を読もう
- 夏休み 興味のある職業について調べてレポートを書こう
- 9～11回 レポートの内容をクラスで発表しよう
- 12～14回 興味のある職業に就く方法を調べよう
- 15～18回 班に分かれて、職業体験・見学に行こう
- 19～22回 中学校を卒業した後の進路について考えてみよう



⇒主体性ととも、自分で必要な情報にアクセスする力を身につける

ICT環境について



①小中学校

⇒**現行政策で1人1台設置**



②高校

高校生のスマートフォン所持率 **91.5%**

※但し、パソコンやスマホを持っていない高校生は
学校のパソコンで調べる機会があるものとする。



①アンケート(5段階評価)

小学校

- ・サイトの使い方はわかりましたか
- ・興味がある仕事を見つけましたか
- ・選択に対する努力ができましたか
- ・興味がある本を見つけられましたか
- ・自由研究は楽しかったですか

教員へのアンケート

- ・子どもの変化は見られましたか
- ・プログラムの負担はどの程度ですか
- ・サイトの使い方は難しいかったですか
- ・指導者マニュアルの内容は十分でしたか

中学校

- ・今までやったことがない事にチャレンジしましたか
- ・興味に関連する本を自分で読んでみましたか
- ・今後もサイトを使おうと思いますか
- ・自分に必要な情報を見つけられましたか
- ・自分の将来の選択肢は増えましたか
- ・目標に向けて努力できると思ったか



② NPO法人による報告

- ・利用者がどの程度増えたか。
(メインの評価軸)

- ・職員人材不足の状況
(職員一人あたりの対応人数)
- ・勤務時間・給与
- ・資金状況(運営状況)
⇒ 監査機関によるチェック

政策の評価

状況に応じて
支援金給付・補助・
場所の提供

私たちの実現目標 10年～12年後



目標：自分から必要な支援を探せる力

目標や夢を持ち、実行できる

WILL計画：ポータルサイトの
(短期) 提供(メイン計画)

義務教育
の場

義務教育の場に行ける

全員が教育を
受けられるように
なる

途中でいけなく
なった層

不登学児
0を達成

COMFORT計画：ネウボラ制度
(長期) の導入

公共施設

不登校
義務教育
の場へ

参考文献



https://www.jpa-web.org/dcms_media/other/20170610toyama%20slides_Tokiko.pdf

https://www.jpa-web.org/dcms_media/other/20170610toyama%20slides_Tokiko.pdf (何人あたり)

<https://www.e-stat.go.jp/dbview?sid=0003411597> (東京出生数)

<https://www8.cao.go.jp/shoushi/shou>

[フィンランドの出産・子どもネウボラ\(子ども家族のための切れ目ない支援\)1](#)

[文教厚生委員会視察報告書\(案\)\(7\)](#)

[shika/meeting/taskforce_2nd/k_6/pdf/s3-1.pdf](#)(経済状況から)

<https://www.decn.co.jp/?p=69430>

[～子どものスマートフォン使用に関する全国調査～](#)

中嶋裕子『子どもをめぐる貧困と虐待 —イギリスの施策から学ぶ—』

https://www.jcsw.ac.jp/research/gakunaigakkai/files/51_tssw_013.pdf

谷田川ルミ『[進路多様校では2割以上減少 -第2回子ども生活実態基本調査報告書](#)』(slide 28図)

https://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/kodomoseikatu_data/2009/hon4_2_03c.html

『「2016年 高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」報告書』

<http://souken.shingakunet.com/research/2016shinrohoukoku.pdf>



「BRIDGE計画」 を通じて、

「生まれ」により選択肢が制限されず、その目標に向かって
努力できるそんな社会を実現します！
ご清聴ありがとうございました